

2015-B					
拠出金・基金の 名称		国際農業研究機関拠出金／国際稲研究所(IRRI)			
種 別		イヤーマーク ノン・イヤーマーク			
【拠出先の国際機関名】国際農業研究協議グループ(CGIAR)／国際稲研究所(IRRI)					
【所管官庁担当局課・室名】農林水産省 大臣官房国際部 海外投資・協力グループ					
【当該任意拠出金の目的・用途等】 途上国農家を実施可能で、農業生産環境の変化に適応した持続的な農業栽培技術を開発するための研究開発を支援する。					
【最近3年間の我が国支払額及びODA率】					
単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千米ドル)	外貨2 (千)	レ ー ト	ODA率(%)
平成27年度	22,134	201		1米ドル = 110円	100
平成26年度	21,687	224		1米ドル = 97円	100
平成25年度	22,845	279		1米ドル = 82円	100
【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】 IRRIはCGIARに属する研究機関であり、貧困と飢餓を減少させ、稲作農家と消費者の健康状態を改善し、環境と調和した持続的なコメ生産を実現することを目的とする。従来から邦人専門家が滞在して共同研究を実施、節水栽培に適した品種改良、栽培技術開発等の成果が生まれている。また、稲の豊富な遺伝資源を有するIRRIは世界の稲研究の中心的な役割を果たしており、稲に関する研究蓄積を有する我が国と連携を密にすることにより、開発途上国の持続的農業の発展に貢献している。 地球規模の気候変動など、農業生産環境が大きく変化する状況の下、食料の多くを輸入に頼る我が国が世界的な食料安全保障に貢献することは大きな課題であり、IPCC評価報告書によると、気温の上昇に伴い、特に低緯度地域で穀物生産性が低下することが予想されている。そのような中で、IRRIへの我が国の拠出金により、気候変動の影響を受けやすい天水稲作地帯において、気候変動条件に適したイネの品種と、我が国の開発した気象予測モデルを用いた栽培管理手法を開発し、それらを組み合わせ、小農が利用可能な水稻栽培システムを構築するための研究開発を実施することは、意義が大きい。					